

創部

五周年記念誌



H. R. F. C.

京都府立東宇治高等学校

ラグビーフットボールクラブ

も く じ

◎創刊にあたって	-----	1
◎部史		
1975年度、1976年度	-----	2
1977年度	-----	4
1978年度	-----	6
1979年度	-----	8
1980年度	-----	11
◎創部5周年によせて	-----	13
◎OB名簿	-----	18

創刊にあたって

全国大会出場をめざそう!!

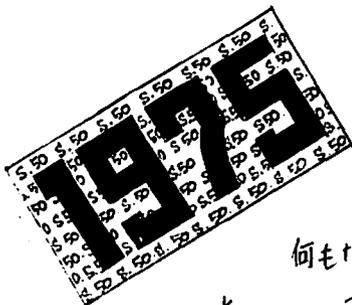
学校長 横山正幸

伏見工高ラグビー部の「全国優勝」が、京都の高校ラグビー界に稀有の大プレゼントを贈ってくれましたが、私は「自分の学校が」の「非類」をつのらせています。というのはかつて山城高校でラグビー部顧問になった経験があるからです。東宇治高校ラグビー部は創部五年で府下ベスト4になりました。この成績をグンとアップする必要があります。それには、まず第一に目標を正しく「府下優勝→全国大会出場」に定めること。そして、伏工・花園・同志社に勝つために、「己」を知り「己」に克つことに全力を集中しましょう。第二に、全部員、特に選手15名のスクラム団結。そして突進。そしてタックル。第三に、すぐれた監督の市原先生の指導に絶対的に忠実に従うこと。試合中のレフリーの審判に従うように、毎日の練習に、また勉強にまじめ、真剣にならなければなりません。創部五周年、ほんとうにおめでとう。ラグビー部が全国大会に出場できることを心から期待して、お祝いの言葉とします。

素晴らしいラグビー精神

顧問 市原興治

さう、5年かたつたが……というのが正直な感想です。省しみなど同好の者が集まり自分達で創ったクラブ、人数の少ない時は、7、8人で練習したことも多ざらであった。50人を越す大世帯となった今、常に創部当時のフロンティア精神を忘れずに地味に活動していきたい。最近の若者は、とかく批判されがちであるが、ラグビーにふれたこと、人生に大きな影響を与えようとして熱い汗を流してほしい。卒業生がいっまでもラグビーの絆で結ばれ、友情を温めていると見ていると高校生活を精一杯生きた者が得られる喜びを感じる。ラグビーは男生のスポーツである。だから激しい格闘的な要素が多い。そして理屈抜きに典型的な集団的なスポーツである。だから友を大切にしたい信頼関係も強い。私は、あれこれ理屈をこねまわし評論家のような人間はあまり好きでない。若い者には感動の汗と涙があれほしい。しっかりしたラグビースピリットを身に付け青春をトライできるように若者であってほしい。



ラグビー同好会の発足

東宇治高校創立2年目、宮本勝義をはじめとする数名が集まった。

何もないところから 自分達のクラブをつくろう！ 築いていこう！

と……。ここに、東宇治ラグビー部が同好会として誕生した。

毎日、毎日、部員達はグラウンドを暗くなるまで走った。そんな彼らの瞳は、いつもボールを追って、輝いていた。

東宇治高校ラグビー部の歴史は、今、始まろうとしている……。



東宇治ラグビー部の誕生

同好会として、発足して1年。ラグビーをしようとする部員も次第に

集まった。「試合がしたい。正式なラグビーの試合がしたい。」

そんな熱い部員たちの願いがかない、部長に 森 実先生、監督、市原 綱治先生、そしてキャプテン、板山幸治を中心として、東宇治ラグビー部が、誕生した。

初試合

昭和51年5月18日

対 乙訓

0-37 <敗退>

侍望の初試合。結果はともあれ、みんな無心でがんばった。悔しかった。その悔やしさをこれからの練習に生かそうと 誓ったのだった。

初トライ

昭和51年7月4日

対 朱雀

8-30

== 助 俣 ト ラ イ ==

助俣の両手に初トライのボールの響きがつたわった。そしてその時からみんなの目標は勝利へと向けられた。

初めての……合宿

昭和51年8月26日～8月29日 3泊4日

兵庫県 神鍋高原にて 19名参加 洛東、亀岡、東山、洛北と合同

初めての合宿は 3泊4日だった。短いようだが 毎日のクラブ時間の練習に比べれば とても充実した3日間だった。

第8回 京都府高校ラグビー秋季大会

1回戦 昭和51年9月11日

対 東山
8-70 <敗退>

== 初めての公式戦 出場 !! ==

- 1. 橋本
- 2. 藤元
- 3. 安東
- 4. 立石
- 5. 山中
- 6. 竹島
- 7. 勝野
- 8. 塩見
- 9. 西岡
- 10. 中島
- 11. 磯崎
- 12. 助供
- 13. 片山順
- 14. 板山
- 15. 吉田

メンバー

初勝利

昭和51年9月25日

対 大谷
22-8 <勝利>

勝ったも 勝ったも ラグビー部 始まって以来の 初勝利。
この喜びは、部員達の胸に 深く残った。

第56回 全国高校ラグビーフットボール大会 京都府予選 於 吉祥院G

1回戦 昭和51年10月23日

対 城南
56-6 <勝利>

2回戦 昭和51年10月31日

対 東山
0-58 <敗退>

《卒業生》

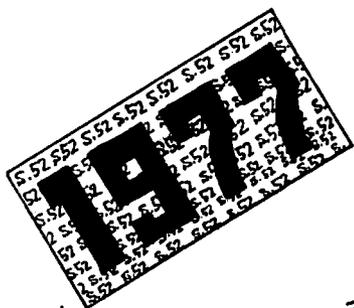


宮本 勝義

ポジション: 15 (フルバック)

体が大きく、サッカー部出身で、キック力がある。

記念すべき OB 41号



創部 2年め エンジンフル回転

ようやくラグビー部もクラブらしくなり、活動も軌道にのって
きた。とは言っても、まだまだまだのホヤホヤ…。なにから
なにまで自分達の手で作らなければいけない。部員は、自
分達のクラブというものを大切に育てあげていった。そうしてこつこつと
積み重ねた努力が実り、近畿大会(新人戦)では1回戦負けしたが、全国大会、
府予選では、ベスト8に初名乗りするなど、すばらしい成績を残した。またラ
グビー部は成長しつつあった。

第28回 近畿高校ラグビーフットボール大会 京都府予選(同志社G)

1回戦 昭和52年2月12日

対 嵯峨野

3-36 敗退



第30回 京都府高校総合体育大会 (吉祥院G)

1回戦 昭和52年5月15日

対 平安

18-0 勝利

2回戦 昭和52年5月22日

対 同志社

16-36 敗退

第9回 京都府高校ラグビー秋季大会

1回戦 昭和52年9月11日

(東宇治G) 対 東山

<資料不足> 敗退



東宇治高校、BEST 8

に初名乗り!

第57回 全国高校ラグビーフットボール大会

京都府予選(同志社G)

昭和52年10月30日

1回戦 対 木津

64-0 勝利

昭和52年11月5日

2回戦 対 桂

12-0 勝利

昭和52年11月12日

3回戦 対 花園

(準々決勝) 0-90 敗退

花園には完敗したものの、ベスト8!

この記念すべきといえるだろう成果は、何の歴史もない東宇治ラグビー部にとって、偉大な歴史であり、また新たな歩みとなった。

これからのラグビー部に大きな活力と目標を与えることになる。

《卒業生》

^{いたやま こうじ}
板山 幸治 15 (フルバック)

ポイントゲッター

ボールを持つとほとんどトライも

^{やまなか みつのぶ}
山中 光信 5 (ロック)

頭脳明せき まじめ人間

^{にしおか けいすけ}
西岡 敬介 9 (スクラムハーフ)

口数が少ない

^{あんどう まさゆき}
安東 宣之 3 (アロップ)

大飯食らい 体が大きい

^{たけしま としゆき}
竹島 利幸 6 (フランカー)

トッピーもよいプレーをする

^{ふじもと こうじ}
藤元 康司 2 (フッカー)

ヤンホールヒリがうまい

^{はしと けんあき}
橋本 善昭 1 (プロップ)

FWのオールラウンド・プレイヤー

^{たていし ますゆき}
立石 昌之 4 (ロック)

モールの立石

^{かたやま じゅんいち}
片山 順一 13 (センター)

脳しんとうの順一

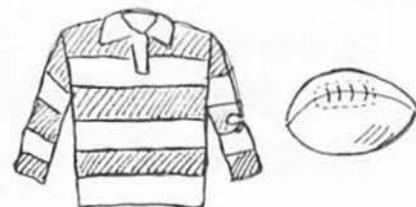


^{なかむら}
中丸 ゆかり (マネージャー)

東山高監督、中丸先生夫人 (旧姓: 村田)

^{たかやま ふうみ}
高山 富美 (マネージャー)

目も玉クワクワの小柄なアイドル



1978

ONE for ALL ALL for ONE

新入生も次第に集まり、ゆず帯となったラグビー部だが、みんなの胸には、ひとつの合言葉があった。"オール フォア ワン フォア オール"。

この年から、南山城大会も始まり、年間5回公式戦に出場することになった。

第29回近畿高校ラグビーフットボール大会 京都府予選 at同志社グラウンド

昭和53年2月11日

1回戦 対城南

65-0 (勝)

昭和53年2月18日

2回戦 対木津

- (敗退)

資料不足のため
得点はわかりません

第31回京都府高校総合体育大会 ラグビーの部 at吉祥院グラウンド

昭和53年5月13日

1回戦 対山城

21-0 (勝)

昭和53年5月21日

2回戦 対洛北

13-44 (敗退)

第1回南山城大会

昭和53年6月17日

1回戦 対城陽

18-15 (勝)

at木津グラウンド

昭和53年6月24日

決勝戦 対

-

at城陽グラウンド

資料不足のため
対戦相手・得点は
わかりません

夏季合宿

昭和53年8月17日~8月21日 4泊5日

兵庫県 鉾伏高原 鉾伏高原グラウンドに2

参加人数 21名+2名

第10回京都府高校ラグビー秋季大会 吉祥院グラウンド

昭和53年9月10日

昭和53年9月17日

1回戦 対桂

2回戦 対西京商

10-8 (勝)

12-14 (敗退)

第58回全国高校ラグビーフットボール大会 京都府予選

昭和53年10月21日

1回戦 対朱雀

4-42 (敗退)

<卒業生>



ほみ 嶋見 裕夫 8 (ナンバーエイト)

近くをはずし、遠くを突く
キッカー。

磯崎 龍 15 (フルバック)

絶妙のタックラー。

山崎 晴久 9 (スクラムハーフ)

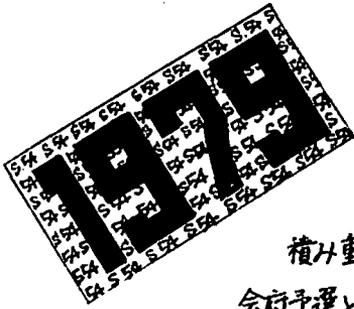
“ハルチン”。傷に逆れた
スクラム・ハーフ。

助川 明 10 (スタンドオフ)

ループの得意なスタンド
オフ。

いちばん人数の少ない学年だった。多岐の
後輩を抱えて精神的なプレッシャー
もずいぶん大きかったが、もっと
大きき4人の心はラグビー部を
ぐんぐん、ひっぱった……。





小さな努力の集積が実を結ぶ

作りあげるクラブが完成したといえるのだろうか。小さな努力の積み重ねが、大きな勝利を導いた。創部4年めにして秋季大会、全国大会府予選とつづけてベスト4の栄冠を獲得。すばらしい成績を残した。またひとつ 東宇治ラグビー部が成長したようだ。

第30回近畿高校ラグビーフットボール大会京都府予選

昭和54年2月3日

1回戦 対同志社 4-66 <敗退>

第32回京都市高校総合体育大会 ラグビーの部 於 吉祥院グラウンド

昭和54年5月12日

5月20日

1回戦 対鶴所

2回戦 対東山

22-4 <勝>

0-42 <敗退>

第2回南山城大会 (多人数の為2チーム参加、A:1.3年チーム、B:2年チーム3敗)

昭和54年6月9日 A 対城南 31-0 <勝> B 対東稜 0-14 <敗退>

6月16日 A 対城陽 58-0 <勝> B 対田辺 8-60 <敗退>

6月23日 B 対木津 0-16 <敗退>

6月30日決勝戦 A 対田辺 10-20 <敗退> 優勝を目前にして田辺に屈し準優勝となる。

第11回京都市高校ラグビー 秋季大会 於 吉祥院G

S54年9月8日 1回戦 対木津 40-4 <勝>

9月16日 2回戦 対田辺 22-6 <勝>

9月22日 準々決勝 対東山 22-20 <勝>

9月29日 準決勝 対同志社 6-28 <敗退>

ベスト4に進出、
シード校に……

伏見工 決勝に進出 花園

25日「栄冠」かけて激突



京中第一花園 後半終了寸前、花園、蹴陣ゴール前のモールより左に開し金山がもぐってトライ、勝利となる

第59回全国高校ラグビーフットボール大会京都府予選。決勝に進出した伏見工と花園の激突。花園は前半にゴールを挙げ、後半は金山選手のトライで勝利を収めた。

対戦相手	スコア	結果
伏見工	10-0	勝
花園	10-0	勝
京中第一	10-0	勝
山科	10-0	勝
洛南	10-0	勝
洛北	10-0	勝
洛南	10-0	勝
洛北	10-0	勝
洛南	10-0	勝
洛北	10-0	勝

《古河修久(FW)、児玉浩臣(HB)が、高校優秀選手にえらばれた。第59回全国高校ラグビーフットボール大会京都府予選 於舌祥院G
 昭和49年11月3日 2回戦(エード校の為) VS京南26-12<勝>
 11月10日 準々決 VS嵯峨野20-0<勝>
 11月17日 準決 VS花園0-40<敗退>

○金山選手の活躍が、花園の勝利に大きく貢献した。決勝では、金山選手のトライが、花園の勝利を決めた。金山選手は、花園の主力選手として、活躍している。金山選手は、花園の主力選手として、活躍している。金山選手は、花園の主力選手として、活躍している。

《卒業生》

^{しほかわ} 志川 修久 6 (ランカー) ^{つと} ^{あつし} 井本 厚志 9 (スクラムハーフ)

Best 4 を勝ち得た。まど セコイ。トライの名人

め役 Cap.

^{くさむら} ^{かずゆき} 植村 和幸 1 (左アロップ) ^{たけは} ^{あきら} 竹島 正明 5 (ロック)

“オヤブツ” まじめ人間 ホールに強くて 女に弱い(?)

持久走に強い。

^{こぞ} ^{ひろみ} 見玉 浩臣 10 (スタンドセ) ^{ふじい} ^{よしき} 藤井 義樹 3 (右アロップ)

技術的進歩 No.1 名S.O. 骨を折っても試合にでているファイトマン

^{さかえ} 坂本 洋 13 (セター) ^{いへ} ^{たけや} 定村 卓弥 15 (7バック)

努力で運動神経を克服した。 過緊張型 F.B.

他のチームでも走法は有名

^{はせがわ} ^{ひろこ} 長谷川 浩子 (マネージャー) ^{かむら} ^{よしみ} 藤村 佳実 (マネージャー)

女子ラグビーのアロップ (...?) “感教” すると失神する

愛称 “ハセ” イラストの上手な “ムラフジ”

^{もちだ} ^{ひろみ} 持田 裕美 (マネージャー)

$\frac{\text{ハセ} + \text{ムラフジ}}{2}$ のような人。



1980

チームワークと努力の1年間

今年で創部5年目。毎年入ってくる新入部員の数も次第に増え
ますますクラブが大きくなったようだ。東宇治ラグビー部の基盤が
できあがったと言えるだろう。今年から新しい試みとして春に遠征
試合も行なうようになりクラブ活動もよりさかんになってきた。

第31回近畿高校ラグビーフットボール大会京都府予選（洛北グラウンド）

昭和55年2月2日

2回戦 如摩高校 4-22（敗退）

（シードのため2回戦より）



昭和55年3月25日(火)~27日(木)

男子 23名

女子 6名

目的 集団生活を通じてこのリーダーシップ及びフォロワーシップの
重要性を認識し規律ある行動を体得する。

具体的目標 1.他県チーム（高校生）との交流をもとに仲間と親の
視野を広げる。

2.ラグビー精神と技術の向上

行程

25日 京都巻—明石—明石西高、東灘高

山崎 姫路—広島（泊）

26日 広島工—岡山—津山（泊）

新幹線

27日 津山工—新大阪—京都着



S55年3月26日 広島平和公園にて...



第33回 香秋総合体育大会 (吉祥院グラウンド)



昭和55年5月11日

1回戦 対 塔南 10-18 (敗退)

= 初めての試合を見て(1年生の作文より) =

試合を見てまず感じたことはラグビーはルールがむずかしい。
 と思った。(中略) といからラグビーは、本当におもいっきり根性が
 なかったらどきなスポーツだと思った。タックルするのもこわいし
 先にタックルされて頭などと打つてたおかしさもあるのも痛そうだった。
 けれど、何かあの試合と見ているうちに、前よりもっとラグビーを
 やりたくなってきた。(井出)



第3回 南山城大会

昭和55年6月14日 1回戦 (田辺G)

対 東稜 60-12 (勝)

6月21日 2回戦 (城南G)

対 城陽 12-24 (敗)

6月28日 3回戦 (城南G)

対 木津 36-4 (勝)



7月5日 (田辺G)

対 城南 58-10 (勝)

南山城大会では

3位でした。

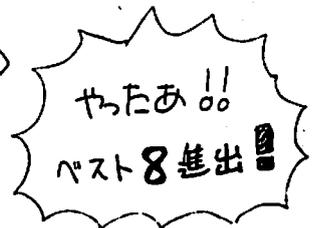
第12回 京都府高校ラグビー秋季大会 (吉祥院グラウンド)

昭和55年9月14日

1回戦 対 立命館 (棄権のため不戦勝)

9月20日

2回戦 対 田辺 20-0 (勝)



昭和 55年 9月27日

準々決勝 対 同志社 0-8<敗退>

あの同志社に2トライ差!

ラグビー部にとってどんなに

大きな自信になったことでしょうか

== 第60回 全国高校ラグビーフットボール大会 京都府予選 ==

昭和 55年 10月25日

1回戦 対 桃山 58-0<勝> (東宇治グラウンド)

11月2日

2回戦 対 洛東 8-20<敗退> (吉祥院グラウンド)

《卒業生》

^{くりた はるか} 栗田 晴可 7 (フランカー)

細い体にファイト まんまん

興奮のかたまり Cap.

^{しらかわ しんいち} 西川 俊一 11 (ウイング)

俊足のウイング

^{いとい} 糸井 充央 2 (フッカー)

敵ボールを取る時技のフッカー

^{こばやし きよこ} 小林 誠 4 (ロック)

大きな声で動きまわったロック

^{かわらと せいじ} 河本 永治 8 (ナンバーエイト)

もちすきのNo8. 人に強い.

^{うへむら けんみ} 植村 孝明

“タツナ” ドマジメ人間

^{かたし ゆうどう} 加藤 勇造 9 (スクラムハーフ)

芸術者なS.H. 物まねは抜群

^{にしむら とまき} 西村 智樹 12 (センター)

弱体のバックスをよくまとめた

リーダー

^{ふじた あつし} 藤田 淳 3 (プロップ)

スクラム中、仲間と口げんかする名人

^{たかやま いくる} 高山 悟 5 (ロック)

同じ部位を2度も骨折したロック

^{しばた こうじ} 柴田 晃司 6 (フランカー)

なんどなく“ジバタ”という感じ...

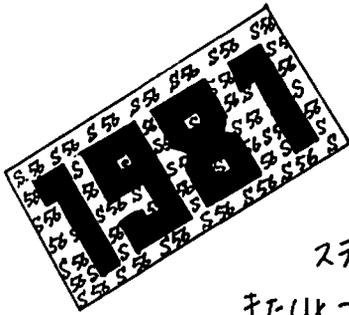
^{おひら ともお} 大平 哲夫 9 (スクラムハーフ)

敏しょう性No1 おぼしこいS.H.

^{まつ田 敏文} 松田 敏文

ラグビー部にはめずらしく

紳士的で ハンサム



ラグビー部は今...

創部5周年を迎え、6年めに入ったラグビー部は今... 新しい
ステップを踏み、前進している。先輩たちの築かれてきた歴史の上に
またひとつ何かを残そうとして、毎日、毎日、練習を重ね、目標に向かって
LET'S TRY!!

第32回 近畿高校ラグビーフットボール大会 京都府予選

1回戦 昭和56年1月24日

対 朱雀 (東宇治G)

38-0 勝利

2回戦 昭和56年1月31日

対 同志社 (同志社G)

0-62 敗退



去年に引き続き2度めの遠征——。

この2泊3日で、何か収穫を得ることができた(イホ)た。

昭和56年3月30日～4月1日

<行程>

30日 京都発 — 名古屋... 対 県立西陵商業高校、岡谷工業高校
新幹線 0-106 (敗) 32-18 (勝)

31日 名古屋 — トヨタ・スポーツセンター ... 対 市立関商工業高校
4-56 (敗)

1日 名古屋 ... 対 東山工業高校  校章が同じだったのです。
14-32 (敗)



ラグビー部に、雨男がいるのか...? 3日間とも雨でした。

第34回 京都府高校総合体育大会 (吉祥院G)

1回戦 昭和56年5月10日

対 乙訓 38-0 勝利

2回戦 昭和56年5月16日

対 向陽

42-10 勝利

3回戦 昭和56年5月23日

対 伏見工

3-92 敗退

第4回 南山城大会 (宇治高棄権のため、A、B 2チーム参加)

1回戦 昭和56年6月6日 A: 対八幡 86-6 (勝)

2回戦 6月14日 A: 対城陽 24-0 (勝) B: 対東稜 0-22 (敗)

3回戦 6月20日 A: 対宇治 (棄権) B: 対城陽 16-38 (敗)

4回戦 6月21日 A: 対東稜 74-10 (勝) B: 対八幡 16-0 (勝)

A. 全勝で
決勝戦へ

<決勝戦>

6月27日 対田辺

50-0 (勝)

念願の
南山城大会
初優勝!!

合宿 = 3

昭和56年8月13日 ~ 17日 4泊5日

兵庫県 鉢伏高原にて...

桂・城陽・長尾・布施北高と合同

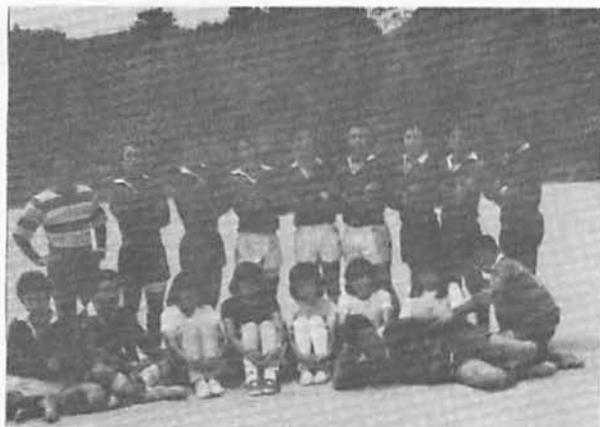
山の気候としては めずらしいくらいの 晴天つづき...

'やまとエ'さんも新築...

とてもすがすがしい 5日間だった。この5日間ご得たものは大きいー

昭和56年8月17日 ▶
鉢伏グラウンドにて...

厳しかった5日間の
日程を終え、
どこかしら笑みが..



第13回 京都府高校ラグビー秋季大会

1回戦 昭和56年9月13日

対 鴨沂

3-0 勝利

2回戦 昭和56年9月19日

対 東山

0-14 敗退

第61回 全国高校ラグビーフットボール大会 京都府予選

1回戦 昭和56年10月25日

対 八幡

90-0 勝利

2回戦 昭和56年10月31日

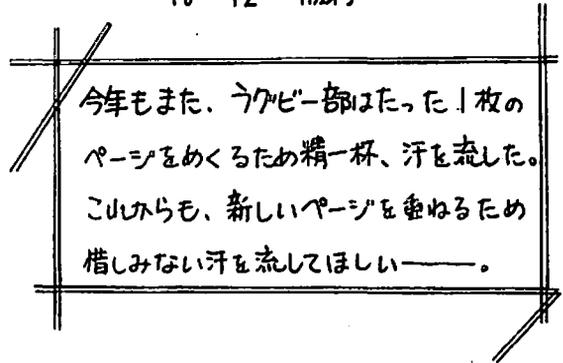
対 嵯峨野

18-12 勝利

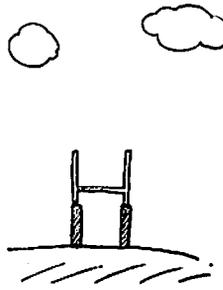
3回戦 昭和56年11月7日

対 花園

0-62 敗退



- | | | |
|---|-------|-------------|
| ① | 小林 正宣 | 6 (ランカー) |
| ② | 友沢 晃 | 7 (ランカー) |
| | 鈴木 天弘 | 1 (プロウフ) |
| | 持田 雅司 | 2 (フッカー) |
| | 杉本 善正 | 3 (プロウフ) |
| | 松本 聡 | 4 (ロック) |
| | 奥村 進 | 8 (ナンバーエイト) |
| | 荒井 久治 | 9 (スクラムハーフ) |
| | 志水 啓二 | 10 (スタンドオフ) |
| | 板山 裕次 | 13 (センター) |
| | 山田 大輔 | 14 (ウィング) |
| | 藤元 康博 | 15 (フルバック) |



- | | |
|-------|------------|
| 花田 和巳 | 4 (マネージャー) |
| 矢倉 志乃 | 5 (マネージャー) |
| 石垣 裕子 | 6 (マネージャー) |
| 谷口 順子 | 7 (マネージャー) |
| 小山 恵子 | 9 (マネージャー) |



●● 創部 5 周年によせて ●●●

この記念誌を創刊するにあたって、保護者の方々、OBの方々に御言葉をいただきましたので、ここに転載させていただきます。

〈ラグビー部 創部五周年を祝して〉

保護者 板山 弘司

私達の高校時代は、ラグビーといえば激しく危険なスポーツとして親達はなかなか許してくれなかったし、戦中はもとより戦後の食糧難時代を思いおこせば無理からぬことと思う。

しかし最近、あちこちの公園やグラウンドで、だ円形のボールをパスし蹴っている姿をよく見かけ、時代の流れを感じる。ラグビーが青春時代の情熱をぶっつけに身共にきたえあげる近代的スポーツとして発展し、特に京都においては、同志社大学を始め伏見工業高校の全国大会制覇に象徴されるように、全国的にもトップレベルにあり、その隆盛には心強いものがある。

今後、高校生諸君が、大学に進学し、真理の追求に没頭するにしても、就職し社会にでて活躍するにしても、ラグビーにより、きたえあげられつちかわれた立派な身体と精神は、必ずやそれぞれの生きてゆく世界のなかで、貢献し、夢と希望を与えてくれる事は間違いないし、信じてやまない。

〈鍛えた耐久力を 社会で生かせ〉

保護者 小林 享男

多種多様に亘るスポーツには必ずルールがある。その中で一人のフリーのホイッスルでどんな抗議も認められず絶対に従わなければならないのが、ラグビー競技ではないかと思う。

それが考えたのか知らなしか、あのだ円形のボールによって一五人対一五人の選手が、力と力のぶつかり合いで、しかも足を蹴るカドリアル以外は、すべてだ円形のボールを持って走りながら味方に対し、後々にボールをパスしながらゴールに向かって突進する、それを相手側の一五人の選手が、そのボールを奪うために、タックルや、セービング等によってその

ボールを奪い合うゲームである。

このような激烈なスポーツは、一種の格闘技であると言っても過言ではないと思う。試合は勝利を目標にしその勝利を得るために、たとえでも激しい苦痛感を耐え抜いて常に練習に力を注ぐことが大事である。過激で危険性のあるスポーツを全うするには、常日頃の練習には選手各人がその基本を完全にマスターして、体力を培養し肉体的・精神的に耐久力をつけるように努力しなければならない。そのためには選手各人が自覚し常に一体となり、チームワークの結成が要求される。でなければ、怪我の基になり強いチームはできない。

ところが、学生は絶対志んではいけないことがある。それは言うまでもなく学校はクラブ活動に専念する場ではない、学問を学び様々な知識を習得する場であることを自覚しなければならぬ。そして余暇にクラブ活動をできると思うことを認識、理解しなければならない。

この精神を身に付けたならば、このような過激なスポーツを体験することによって、人間として品格ある青年に形成され、やがては社会人となった時、初めて役に立つことになるだろう。

< チームワークを大切に >

54年度 卒業生 古川 修久

高校生活、それはイコール、クラブ生活だった。苦しいことも、いやになることもあった。しかし、現役を退いて初めてラグビーというスポーツのすばらしさ、力強さを感じる。そして、ラグビーというものと出会ったことを本当によかったと思う。

クラブ生活での思い出は、山ほどあるが その中で最も印象に残っているのは、ぼくが3年の時の秋季大会3回戦の対東山戦である。

あのすごい（ぼくだけが思っているのかもしれないけれど）試合は本当にぼくのクラブ生活の中で、大きな比重を占めている。

試合が始まるとぼくはある圧迫というか何というか、重いものを感じた。そして心の中で負けるんじゃないかと思った。その気持ちちは後半に入ってからも続いた。しかし何の拍子かわからないが、急にこちらに拍車がかかり、ガシを攻め始めた。そして どんどんトライを重ねていった。ぼくは驚かと思った。でも、みんなの真剣な顔を見て本当であることを知った。そしてその時ぼくは「勝てる」と思った。「勝てる」と思ったのはそれだけの実力が

あると思ったからではない。みんなの真剣な顔を見て、ほくは今まで感じなかったチームワーク、みんながこの試合、一点だけを見つめていることを知ったからだった。

この試合で、ほくはチームワークの大切さとその力を学んだ気がする。

そして東山に寸差で勝った。あの時は本当にうれしかった。気がつくやうに涙がこぼれていた。泣けるだけ泣こうと思った。

ラグビーというのは、すばらしいスポーツだ。けれども一人では何もできない。十五人がそろって初めて成り立つものだし、みんなが真剣になって練習をし、すばらしいものをつかんでほしいと思う。

54年度 卒業生 植村 和幸

なんて言ったらいいのか、このう……とんでもない注文をうけてしまった。ほつきり言っ、まじめに文章を書くのは ニガテなんです。

一番心に残っていることといえば、やはり秋季大会の東山戦です。でもこれは古川が書きそうだから、ナオ(古川)にまかせることにしよう。

今から2年前を振り返ってみると……。自分達が3年になった当時、とんでもないチームだった。ほつきりいって弱小チームだったし、問題も続発した。強くなりたかった。これは誰しもが思っていたにちがひなかった。今一つの思い出であるが、3年生全員、体育教官室のストーフを囲って、市原先生から、ヨコのつながりの大切さを改めて知らされた。この日以後、古川をback upし、互いにsupportしあった。

夏、京大との合同合宿。地獄の日々。そして実力をつけた。何よりも、この合宿により自信を得た。これだけのことができたんだから、秋季大会ですべてをぶつけよう。オシタラだってやればできるんだ、と。

それからは無我夢中。『アッロという間にすべてが終わった。』

『勝負の価値は、勝つことにあるのではなく、常に互いが全力を出しあうことである。』と、ティム・カルウェイが「インナー・ゲーム」の中で言っている。そう、勝ち負けは、スポーツの一つの要素であり、一つの結果にしかすぎない。ラグビーにおけるような、ゲームの終わりを宣告する『NO SIDE』のルールこそスポーツの本質なのではないか。

最後に、東宇治高校に入学した頃と、現在の自分を見比べ、すいぶん筋肉質になったたと

感じる。どちらかといえば、心も身体も弱かった自分が、3年間の高校生活をラグビーと共に過ごし、ひと回りもふた回りも大きくなったことを、市原先生をはじめ諸先輩方、そして自分を理解してくれた両親に感謝します。

55年度 卒業生 栗田 晴可

今、高校時代の3年間を振り返ってみると、ラグビーをやった本当によかった、また、キャプテンをやった本当によかったと思う。大きな戦歴など、全然残せなかったけど、この3年間は、ぼくを人間的に一回りも二回りも大きくしてくれた。内気で弱々しかった自分がラグビーを通して大きくなったと思っている。

今は浪人も決まり、先が真暗な状態になってしまったが、別に悔しいはない。これからの人生、高校時代の3年間に、ラグビーをやった、キャプテンを務めたことを誇りに思い、自慢にしていきたい。

55年度 卒業生 西村 智樹

今、振り返ってみると、クラブに関する思い出といえば、なぜか3年時の事よりも、1年時の修業時代と呼ぶにふさわしい日々での事ことが浮かんでくる。

グラウンド整備、ボール磨き、どれをとっても苦しくつらいことばかりで、毎日クラブに振り回されていた気がするが、そういうことをやていくうちに、安易な気持ちで臨んでいたぼくも高校におけるクラブの存在価値というものも、次第に理解し始めていった。

特に合宿において、集団生活における規律、秩序というものを学び、やっぱり高校は違うなあと痛感したものだった。

ぼくの1年の秋、突然とも言うべきチームは急に弱体化した。確か城南とほぼ同点に近いスコアで勝った以外は、桂、向陽 etc. ……と大差で敗れてしまい、本当に下級生ながらなんとかしなければならぬと思っていた。先輩たちは、何度もミーティングを重ねられ、そういうことを目にするたびに、次の試合はなんとしてでもと下級生は下級生なりに、団結した。その時の先輩たちの努力と、ぼくたち下級生の意志疎通がなければ、翌年のベスト4はなかっただろう。そういう意味で、当時の思い出は一番印象度が強い。

2年時のベスト4後、新チームが結成され、ぼくが副主将となった時、その前年と同じようにチームが弱体化しても、一年前の先輩の姿が手本となって、今度はぼくたちが上級生として話し合いの場を持つことができた。そういう話し合いの場を持つことができたからこそぼくみたいな者でも副主将の大役をやり終えることができたのだと思う。

ラグビーは、チームの和なくしては始まらないスポーツだし、東宇治高校のラグビー部が強い時も弱い時も、キャプテンを中心に話し合い考え、悩み、自らの手で切り開くという精神でがんばってもらって、ぼくたちのできなかったことをどんどんやっていかれることを望む。

〈H. R. F. C. での3年間〉

55年度 卒業生 大平 哲夫

ラグビー部での3年間を振り返ってみると、いろいろなことがあったが、気弱で人一倍キビな僕が、ラグビーなんていう肉弾ゲームを3年間やり通したこと、又、その上レギュラーなんかになれたということに我ながら驚く。なにしろ、1年の時なんか中学との初試合にWTBで出て、タックルに行っても何回も、ふっ飛ばされたのだから……。

この3年間は、僕にとっては相手との戦いというよりケガとの戦いという感じだった。1年の合宿で右鎖骨を複雑骨折し、手術したのをはじめ次々ともうこれ以上、傷める所はないという程ケガをした。

でも、一度もやめようとは思わず、何故か逆に、見学していると体がウズウズして、早く帰ってラグビーをしたいという気になった。そして、復帰すると不思議なことに自分のプレーが以前より上手になっているのが感賞としてわかった。(勝手にそう思っただけかもしれないが…)思う存分走ったり、蹴ったりするという満足感ほケガをした人しかわかりませんヨ。

ケガの他に思い出として残っているのは、やはり2年の時の秋季大会と全国予選でのベスト4進出と、春休みの中国地方遠征だ。

時に秋季の時は、春季で5点近くの大差で完封された東山に、ノーサイド5分前の逆転トライで勝ったのだから本当に嬉しかったし、弱小チームもやればできる、最後まであきらめてはいけないということもラグビー部全員が体験でき、よかったと思う。それから、不祥事が多かったこの3年間を過ごした僕らの学年が、中学生に大敗するチームから、同志社を苦しめるチームになれたことも大変嬉しく、可ばらしいことだと思う。又、そこまで指導して下さった市原先生、森先生、OBの方々、僕らを盛り上げてくれた後輩、マネージャー達に感謝する。

《記念誌編集によせて...》

昭和50年に同好会として出発してから、はや5周年。

少人数で、有志だけで、始まった東宇治高校ラグビー部も、今や総部員50名を越える大世帯になりました。このようにラグビー部が、成長してきたのも、荒地を耕やし、種をまいてくださった、先生やOBの先輩方のおかげだと思います。

今、ラグビー部は着実に成長しています。また、これからもどんどん成長し、先輩方のまいてくださった種も、いつの日かすばらしい実を結ぶことでしょう。

5周年... これは、ひとつの区切りにすぎません。これから10周年、20周年と、ラグビー部が、成長、発展し続ける中間点にすぎません。しかし、ここで、この記念誌を通して振り返ることによって、ラグビー部のできてきた過程、先輩達の努力を知り、何かを見い出してほしいと思います。

「初心」を忘れることなく、いつも前向きに突き進め... そのような気持ちで、これからもラグビー部が発展していくことを願います。

5周年記念誌の編集などという大役を任せられ、このような仕事は初めてで、何かと不十分な点もありますが、ここに記念誌を完成させることができました。わたしたちは、このような仕事ができたと、とてもうれしく思っております。また、この記念誌が、あこしでも皆様の心に残れば幸いです。

最後になりましたが、この記念誌編集にあたって、原稿の御協力を頂きました保護者の方々、OBの先輩方に心より御礼申し上げます。

昭和56年12月1日

東宇治高校ラグビー部

マネージャー 一同